



かみさま ほんとう 神様は本当にいるの

あなた自身が判断すること

神は人間がえがいた、もっとも完全に尊い人やもので、本当にいるかどうかは、人間自身、あるいはあなた自身が判断することなのです。神を信じる人と信じない人がいるように、神がいるかいないかを決めるのも、人によってまちまちなのです。

神を信じないという人でも、何か願いごとがあると、神社でさい銭を入れて、手を合わせて神にたのみごとをしたり、神のお力ぞえをあてにして、何か思い切ったことをやってみたりします。

どんな人が神か

ここで、人間は神をどう考えたか、いくつかの場合をみてみましょう。

信仰の相手としてうやまう人。人間をこえたすぐれた能力を持ち、人類に福やわざわいを与える。神だけが知っていることがあったりする。だから神に合格を祈ったりする。

日本の神話や伝説などに、人間として登場する、超能力をもったもの。

第二次世界大戦の前までは、天皇のことを「現人神」とよび、天皇が偉大な神であると信じた。また、神社にまつられた死者の霊を神といった。

助けてもらったり、恵みを受けたりした、とてもありがたい人を、神と思った。

(監修・保岡 孝之)

